

QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 25 No.4, 2018



国際ワークショップ PATA Days 2018 のフィールドトリップの様子。ギリシャ北部の Gomati 断層について説明するテッサロニキ大学の Pavlides 教授。(撮影者:吾妻 崇)

Vol. 25 No. 4

August 1, 2018

総会のお知らせ	2	ミニシンポジウム報告	9
2018 年大会案内 (第 6 報)	3	第 6 回執行部会議事録	11
2018 年学会賞等受賞者決定	8	会員消息	11

◆日本第四紀学会総会のお知らせとお願い

8月25日(土)に首都大学東京南大沢キャンパス講堂にて2018年度総会が開催されます。総会は2017年度の事業報告が行われ、また2018年度事業計画が提案される重要な会議です。会員各位のご出席をお願いいたします。やむを得ず欠席される場合には、委任状(とじ込みはがきまたはファックス、メール)を必ずご提出下さい。8月20日(月)必着でお願いします。

- とじ込みはがきでの委任状提出の場合は、お手数ですが切手を貼り、締切日までに到着するように早めに投函下さい。
- ファックスでの委任状提出の場合は、とじ込みはがきか下記の様式に必要事項を記入し、下記のFAX番号宛にお願いします。

FAX 番号：03-5291-2176 日本第四紀学会事務局宛

- メールでの委任状提出の場合は、宛名を「2018年度総会議長」としたうえで、代理人氏名(「議長」でも可)、氏名、所属を明記し、daiyonki(at)shunkosha.com(学会事務局:「(at)」の部分「@」に変えて下さい)へ送信して下さい。メールの場合には、題名を「第四紀学会メール委任状(2018総会)」として下さい。

総 会 委 任 状

2018年 月 日

日本第四紀学会 2018年度 総会議長殿

私は日本第四紀学会 2018年度総会における一切の議決権を

- () 会員に委任します。
- 議長に委任します。

上記のどちらかを選択し、□にチェックマーク✓を記入してください。

会員は、総会に出席する会員(1名に限る)に議決権を委任することができます。一人の会員が他の会員から受けられる議決権は1票のみですので委任する場合は本人の承諾を事前に得たうえで、その会員のお名前をお書きください。

氏名 () (自筆に限る)
所属 ()

◆日本第四紀学会 2018年大会案内 (第6報)

本大会は、一般研究発表（口頭およびポスター）とシンポジウム「自然環境と人類の将来予測に向けた第四紀学の最先端：各領域分野の最新動向とその共有・発展をめざして」を中心に開催いたします。

1. 大会テーマ

「自然環境と人類の将来予測に向けた第四紀学の最先端」

2. 開催場所

首都大学東京南大沢キャンパス講堂・7号館スタジオ

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

https://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/access.html

アクセス 京王相模原線「南大沢」駅下車、改札口から徒歩5分。

車による会場への来訪はできません。

受付：1号館1階（講堂向かい）

口頭発表会場：講堂1F小ホール

ポスター発表会場：7号館101スタジオ

企業展示：1号館1階時計塔下

昼食について：南大沢駅前の諸施設にて昼食をとれます。



3. 開催日程 2018年8月24日(金)～8月28日(火)

- ・一般研究発表・シンポジウム 8月24日(金)～8月26日(日)
 - ・巡検：伊豆諸島、新島火山の地形・地質と噴火史 8月27日(月)・28日(火)
- 詳細は大会案内(第5報：第四紀通信第25巻3号)をご覧ください。

8/24(金)		8/25(土)		8/26(日)シンポジウム(小ホール)	
AM1 小ホール	10:00-11:00	AM1 小ホール	9:30-10:30	AM1	9:30-11:00 領域1
AM2 小ホール	11:05-12:05	AM2 小ホール	10:35-12:05	AM2	11:10-12:10 領域3
昼食 12:05-13:30		昼食 12:05-13:20		昼食 12:10-13:20	
PM1 小ホール	13:30-14:30	ポスターコアタイム2 (7号館スタジオ) 13:20-14:35		PM1	13:20-14:50 領域2
PM2 小ホール	14:35-15:35	PM1	14:40-16:10	PM2	15:00-16:00 領域4
PM3 小ホール	15:40-16:55				
ポスターコアタイム1 (7号館スタジオ) 17:00-18:15		総会・各賞授賞式 (小ホール) 16:15-18:15			
評議員会 (小ホール) 18:20-20:00		懇親会 (ルヴェソンヴェール) 18:30-20:30			

4. 参加費・懇親会

- ・大会参加費(会員・非会員を問わず):2000円。会場受付でお支払いください。ただし、大学院生は1000円、70歳以上の会員と学部学生は無料です。
- ・講演要旨集：予定価格2000円(会場で直接販売。ただし、発表数等によって価格が若干変動する場合があります)
- ・懇親会：8月25日(土)18:30～
会場：首都大学東京南大沢キャンパス ルヴェソンヴェール 南大沢
参加費(予定)：一般5000円(予約)、6000円(当日) 院生・学生2500円(予約)、3500円(当日)
懇親会は事前申し込みがお得です。8月10日(金)17時までに下記へご連絡ください。
e-mail：jaqua2018(at)gmail.com (atを@にかえる)
申し込み時のメール件名は「懇親会_氏名」としてください。

5. 発表要領

【口頭発表】

- ・シンポジウム、一般研究発表の発表時間はプログラムをご確認ください。質疑を含む時間ですのでご注意ください。発表時間の厳守をお願いいたします。
- ・会場のプロジェクターへの接続は、講演者ご自身が持参したパソコンを使用してください。コンピュータウィルス対策のためですのでご理解とご協力をお願いいたします。
- ・パソコン持参が難しい場合は、大会事務局(jaqua2018(at)gmail.com)にご相談ください。
- ・OHPはありません。

【ポスター発表】

- ・ポスター発表は8月24・25日を通じて展示します。コアタイムは24日に第一部(奇数)が、25日に第二部(偶数)がそれぞれ行われます。展示期間は24日朝10時から25日16時までです。
- ・ポスターは幅900mm、高さ1700mm以内で用意してください。
- ・会場は7号館1階のスタジオです。コアタイムにはポスターの前にお立ちください。
- ・ポスターは指定されたボードに掲示してください。掲示用具は準備しますので、会場の指示に従ってください。
- ・ポスター会場では、コンピュータ用の電源などは使用できません。

6. 企業展示

1号館1階時計塔下にて24日10時から26日16時まで開催します。

7. 一般研究発表

【口頭発表】プログラムは当日までに若干の修正の可能性があります。受付にて販売される要旨集のプログラムを確認してください。(★：学生発表賞審査対象 ☆：若手発表賞審査対象)

- 24AM1 遠藤邦彦ほか 武蔵野台地の新たな地形区分
 24AM1 高橋尚志ほか 最終氷期以降の支流の土砂供給プロセス変化に基づく、荒川上流河谷の区分(★)
 24AM1 植木岳雪 四国南東部、奈半利川の段丘
 24AM1 須貝俊彦 古東京湾最奥部における最終間氷期の地形発達と関東造盆地運動(予報)
 24AM2 品川俊介ほか 河川堤防基礎地盤漏水現場におけるトレンチ調査
 24AM2 石井祐次 肝属平野におけるデルタプレインの発達過程
 24AM2 中条武司ほか 大阪海岸低地の形成とその規制要因
 24AM2 加 三千宣ほか 別府湾堆積物にみられるイワシ類の過去7000年間の個体数変動
 24PM1 河村 愛ほか 台湾と琉球列島の第四紀哺乳動物相の関連—中期更新世以降の化石群集の比較—(☆)
 24PM1 河村善也ほか 第四紀の日本のモグラジネズミ属—化石記録から得られたこれまでの知見と今後の展望—
 24PM1 糟谷大河ほか 日本産 *Hypoxylonites* 属(子囊菌類)化石の分類学的検討
 24PM1 箱崎真隆ほか 静岡県裾野市茶畑山から発見された最終氷期の埋没木の樹種と放射性炭素年代(☆)
 24PM2 鹿島 薫ほか モンゴルにおける湖沼湿原堆積物を用いた完新世の乾湿変動復元の試み
 24PM2 井上 淳ほか 琵琶湖高島沖コアの微粒炭分析—気候変動、春季日射量、植生変遷に伴う過去15万年間の森林火災量変動
 24PM2 山田皓生ほか 大阪湾における前期—中期更新世の間氷期ごとの最高海水準期の気候の比較(★)
 24PM2 福島 徹 東京都昭島市の上総層群小宮層産 *Lingula* 層から推定される堆積環境
 24PM3 田村糸子ほか 大隅石を含む2.1Maの広域テフラ 坂東2-大桑O1テフラ—新たな対比による分布範囲の拡大と噴出源の推定—
 24PM3 中里裕臣ほか 千葉県銚子地域の犬吠層群横根層のYk8テフラ
 24PM3 鈴木毅彦ほか 埼玉県、元荒川沿い沖積低地の発達過程：再堆積軽石および放射性炭素年代からの検討
 24PM3 小林 淳ほか 伊豆諸島新島火山のテフラ層序と最近約2万年間の噴火史
 24PM3 青木かおり 鹿島沖海底コアMD01-2412の有孔虫観察用残渣試料をクリプトテフラ研究に用いる試み
 25AM1 兵頭政幸 MIS19間氷期の気候層序の問題提起とその解
 25AM1 藤井和香ほか 大阪湾周辺の植生が示すMIS19の急激な温暖化と寒冷化のくり返し(★)
 25AM1 楡井 尊 関東内陸部、中部更新統萩生層からのアカガシ亜属産出
 25AM1 奥野 充ほか ^{14}C スパイクとB-Tmの精密年代を用いた相関係数マッチング法の検討
 25AM2 宮入陽介ほか 泥炭ウイグルマッチングを用いた高精度 ^{14}C 年代決定—樽前火山(Ta-a)テフラを用いた検証—
 25AM2 河合貴之ほか 栃木県北部、矢板・喜連川丘陵における加久藤テフラおよび沢岩層なだれ堆積物の認定と中部更新統の編年
 25AM2 北村晃寿ほか 静岡県御前崎の隆起貝層の穿孔貝の種の改訂について
 25AM2 卜部厚志ほか 北海道檜山沿岸・奥尻地域における津波イベント堆積物
 25AM2 谷川晃一朗ほか 高知県南国市における完新世中～後期の津波浸水履歴(☆)
 25AM2 小林 航ほか 能登半島西岸における過去3000年間の相対的海水準変化と地震性地殻変動(☆)
 25PM1 藤岡換太郎ほか 相模湾とその周辺部の海底谷の成因—伊豆・小笠原弧の衝突テクトニクス—
 25PM1 山本政一郎 地理オリンピックの国際大会・国内大会の扱い分野の比較分析
 25PM1 田辺祥汰ほか 水月湖年縞堆積物に記録された更新世最末期の地磁気エクスカージョン(★)
 25PM1 鴨井幸彦 越後平野における腐植土層の層厚分布図の作成—腐植土層の層位分布と ^{14}C 年代から見た湿原環境の消長—

- 25PM1 奥野淳一ほか 南極大陸縁辺の大陸棚深度に対する表面荷重の影響
 25PM1 小荒井 衛 地形分類に基づいた液状化ハザードマップ作成に関する検討

【ポスター発表】(★：学生発表賞審査対象 ☆：若手発表賞審査対象)

コアタイム 24日 17:00-18:15 (第一部)、25日 13:20-14:35 (第二部)

- P1 谷野喜久子ほか 湿潤温暖気候下の風食地形形成プロセス 茨城太平洋岸の事例
 P2 青木かおりほか 伊豆諸島北部、新島に分布するテフラの標準層序と特性－伊豆諸島テフラのデータベース化の一環として－
 P3 笠間友博ほか 神奈川県三浦半島宮田層中の不整合とテフラの年代について－一事露頭が示唆する宮田層形成に関する制約－
 P4 西野佑紀ほか 栃木県、高原火山におけるカルデラ形成期 初期噴出物の年代 (★)
 P5 青島 晃ほか 浜名湖北方のカルスト地形に見られるカレンの形態
 P6 大井信三ほか 房総半島東部夷隅川・御宿の段丘地形と沖積層
 P7 石村大輔ほか 地球化学的特徴に基づく津波堆積物間の堆積物の側方対比 (☆)
 P8 渡邊眞紀子ほか サスカチュワン・クアペル溪谷の扇状地堆積物を対象とした完新世の乾湿プロキシとしての Beavers Index の解釈
 P9 水野清秀 神奈川県大磯丘陵及び足柄山地に分布する第四紀堆積物中のガラス質火山灰層
 P10 研川英征ほか 平成 29 年 7 月 22 日からの梅雨前線に伴う大雨による雄物川の浸水範囲
 P11 岩寄広大ほか 台湾西南部 菜寮河流域の更新統層序の再検討 (★)
 P12 西連地信男ほか 茨城県瓜連丘陵栗河層の露頭
 P13 舟津太郎ほか 武蔵野礫層の堆積頂面および堆積構造からみた武蔵野礫層の堆積プロセス (★)
 P14 佐藤善輝ほか 青森県小川原湖の湾口部における完新世中期以降の地形環境変化 (☆)
 P15 市川清士ほか 洞穴遺跡内に記録された大波堆積物の 3D モデルの作成
 P16 佐藤 剛ほか キルギス国、アク・ベシム遺跡で発見された唐代城壁の変形構造とその成因
 P17 安田 涼ほか 秋田県田沢湖の湖底堆積物に記録された完新世古地磁気永年変化 (★)
 P18 丹羽雄一ほか 三陸海岸北部・久慈平野完新統の堆積過程と地殻変動傾向 (☆)
 P19 谷川晃一朗ほか 高知県沿岸における津波堆積物調査 (☆)
 P20 藤原 治ほか 離水生物群集が示す三浦半島南部の完新世隆起海食洞の離水年代
 P21 近藤玲介ほか pIRIR 年代測定法による東京西南部、世田谷層の層序
 P22 植村杏太ほか 東京西南部における更新統軟弱泥層の世田谷層のテフラ層序と分布の再検討 (☆)
 P23 河合貴之ほか 栃木県北部、塩原カルデラから中期更新世に噴出した降下テフラおよび火砕流堆積物群の記載岩石学的特徴の変化
 P24 和田恵治 雌阿寒岳、過去 13000 年間の噴火史
 P25 西澤文勝ほか 伊豆諸島、神津島火山中央部の環状地形 (那智山火山体) の形成時期
 P26 佐々木夏来ほか 奥羽山脈の第四紀火山における山岳湿地の標高分布特性
 P27 辻 ひさほか 大型植物化石群からの復元した中期更新世後半 MIS7 の気候変化と八ヶ岳東南麓の植物相変遷 (★)
 P28 野口真利江ほか 栗橋コアの珪藻分析からみた中川低地北部における MIS5e と MIS1 の古環境 (☆)
 P29 里口保文ほか 琵琶湖南湖における泥質堆積物の層相と粒径
 P30 加藤茂弘ほか 上総層群の On-Byk テフラと Hkd-Ku テフラの LA-ICP-MS 法によるジルコン U-Pb 年代と天文学的噴出年代
 P31 杉中佑輔ほか 地質層序システムを活用した東京 23 区の東京層堆積期 (MIS 5e) の地形抽出 (☆)
 P32 堀 伸三郎ほか 東京の地質構造研究を支援する地質層序システムの開発
 P33 内藤尚輝ほか 北海道南西部、大谷地層における溶出水の化学的特性と堆積環境の関係 (★)
 P34 木森大我ほか 茨城県行方台地における開析谷の発達過程と地殻変動への応答に関する一考察 (★)
 P35 糟谷大河ほか 関東地方東部におけるスカシユリ *Lilium maculatum* の系統地理
 P36 安井 瞭ほか リュウキュウマツ林の菌根菌群集から探る琉球列島の海没履歴 (★)

- P37 大城遥一ほか 大阪府河内平野西部のボーリングコア(桜宮東コア)の有孔虫分析による完新世の水域環境変遷(★)
- P38 林 尚輝ほか 植物珪酸体を用いた九州南部における鬼界カルデラ噴火前後の植生の復元(★)
- P39 高岡貞夫 北アルプスにおける地すべり地植生の比較研究—ランダムフォレストを用いた分析—
- P40 中西利典ほか 九州北東部地域における鬼界アカホヤ噴火による植生・環境への影響と回復過程：大分平野コア(KUO-1)の花粉および植物珪酸体、放射性炭素海洋リザーバーの検討
- P41 白井正明ほか 羽村市史資料編(自然)の刊行について

8. シンポジウム「自然環境と人類の将来予測に向けた第四紀学の最先端：各領域分野の最新動向とその共有・発展をめざして」

日本第四紀学会では、2017年度から領域を中心とした活動に移行しました。各領域内での集中的な討論、連携が開始されつつあります。一方で分野横断的な性格をもつ第四紀学会では、本大会などを通じて諸研究分野の動向、とくに最新成果を共有することにより各領域ならびに全体の発展が期待できると思われまます。このような趣旨に立ち、本シンポジウムは以下に示すように各領域から趣旨に即した話題提供から構成されます。

【領域1】

長谷川 精(高知大学理工学部)：湖成年縞から読み解く白亜紀無氷床時代の気候安定性

吉森正和(北海道大学大学院地球環境科学研究院)：北極域の温暖化予測において第四紀研究の果たす役割と可能性について

高柳栄子(東北大)・若木重行(JAMSETC)・石川剛志(JAMSTEC)・井龍康文(東北大)：ネオジム同位体比による第四紀古環境復元の新たな展開

北場育子(立命館大)・古代アメリカの比較文明論プロジェクトメンバー：マヤ低地年縞堆積物の超高解像度編年と「体感できる」気候変動

山本正伸(北大)・加 三千宣(愛媛大)・入野智久(北大)・池原 研(産総研)・竹村恵二(京大)：別府湾堆積物記録からみた過去の気候と洪水イベント

【領域2】

藤原 治(産総研)・杉山浩平(東大総合文化) 趣旨説明：洞窟考古地震学の新展開

土井翔平(文京区教育委員会)・杉山浩平(東大総合文化)：白石洞穴遺跡の遺物と遺構

米田 穰(東京大学総合研究博物館)：白石洞穴遺跡の年代学的検討と古人骨の化学分析

高橋 健(横浜市歴史博物館)・黒住耐二(千葉県立中央博物館)：白石洞穴遺跡出土の貝類・貝製品

池谷信之(明治大学黒耀石研究センター)：白石洞穴および周辺遺跡出土弥生土器の胎土分析

藤原 治(産総研)・上本進二(神奈川災害考古学研究所)：神奈川県白石洞穴遺跡の堆積物中の大波の記録(関東地震との関連)

【領域3】

中川 毅(立命館大)・山田圭太郎(立命館大)・大森貴之(東大)・北場育子(立命館大)：世界の追撃をいかにして振り切るか—水月湖プロジェクトの憂鬱と勝算—

坂田周平(学習院大)：第四紀ジルコン U-Th-Pb 系年代の層序学への応用：放射非平衡効果と非放射壊変起源鉛の取扱い

田村 亨(産総研)：OSL 年代層序による関東平野北部の地殻変動レジームシフトの探求

【領域4】

松井哲哉(森林総研)：最終氷期最盛期の植生—種分布予測モデルからのアプローチ

津村義彦(筑波大)：最終氷期最盛期の植生—現生樹木の分子生物学的アプローチ

高原 光(京都府大)・百原 新(千葉大)・LGM 古植生研究グループ：最終氷期最盛期の植生—古生態学的データを用いたアプローチ

9. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：鈴木毅彦(首都大)

大会実行事務局長：白井正明(首都大)

実行委員：渡邊眞紀子・出穂雅実・岩瀬 彬・石村大輔・小林 淳・青木かおり・西澤文勝・村田昌則(以上、首都大)

行事委員会：藤原 治(産総研)・加 三千宣(愛媛大)・米田 穰(東京大)・岡田 誠(茨城大)・山田和芳(ふじのくに地球環境史ミュージアム)

連絡先：2018年大会実行委員会事務局

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京大学院 都市環境科学研究科地理学教室 白井正明

(TEL: 042-677-1111 内線: 3838)

大会用メールアドレス: jaqua2018(at)gmail.com (atを@にかえる)

◆2018年日本第四紀学会学会賞・学術賞・若手学術賞、論文賞・奨励賞、功労賞受賞者決定

日本第四紀学会では、学会賞、学術賞、論文賞、奨励賞、功労賞を設け、顕彰を行っております。また、今年度から新たに若手学術賞が設けられました。2018年の各賞の選考が行われ、受賞者が決定されましたのでご報告致します。

学会賞は第四紀学の発展に貢献した顕著な業績を有し、また日本第四紀学会の活動に著しい貢献があった正会員に授与される、学会における最高の賞です。学術賞は第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与されます。若手学術賞は、国際誌等を通じて第四紀学に貢献した優れた論文を発表した若手会員(選考が行われる当該年の4月1日時点で39歳以下の会員)に授与される賞です。会員から各賞の受賞者候補者の推薦・立候補を受け付け、1月31日をもって締め切られました。その後、学会賞選考委員会(委員長：齋藤文紀、副委員長：久保純子、委員：遠藤邦彦、小野 昭、中村俊夫)によって学会賞候補者2名、学術賞候補者2名、若手学術賞候補者1名が推薦され、6月17日に行われた評議員会において、下記の通り受賞者が決定されました。

●日本第四紀学会学会賞

受賞者：竹村恵二会員

受賞件名：「西南日本第四系の火山灰層序によるテクトニクスおよび環境変動の研究」

受賞者：山崎晴雄会員

受賞件名：「南関東を中心とした活断層の活動史にもとづくネオテクトニクスの研究」

●日本第四紀学会学術賞

受賞者：塚本すみ子会員

受賞件名：「ルミネッセンス法及びESR(電子スピン共鳴)法を用いた高精度年代測定法の研究」

受賞者：森 勇一会員

受賞件名：「昆虫化石に基づく古環境と生業活動の復元に関する研究」

●日本第四紀学会若手学術賞

受賞者：北場育子会員

受賞論文題名：「Geological support of the Umbrella Effect as a link between geomagnetic field and climate」

雑誌名：Scientific Reports, 7, 40682, (2017.01.16), doi: 10.1038/srep40682

著者：Ikuko Kitaba, Masayuki Hyodo, Takeshi Nakagawa, Shigehiro Katoh, David L. Dettman, and Hiroshi Sato

論文賞及び奨励賞は、会誌「第四紀研究」に掲載された第四紀学の発展や進歩に貢献する優れた論文を公表した会員を含む著者に授与されるもので、とくに奨励賞は若手研究者（会員）の育成と研究奨励に寄与することを目的としています。会員から候補者（候補論文）の推薦・立候補を受け付け、1月31日をもって締め切られました。その後、論文賞選考委員会（目代邦康委員長、阿部彩子、奥野 充、竹下欣宏、海部陽介各委員）によって、論文賞候補論文1件が推薦され、6月17日に行われた評議員会において、下記の通り受賞者が決定されました。

●日本第四紀学会論文賞

受賞論文題目：走査型 X 線分析顕微鏡（SXAM）による非破壊・連続化学組成分析の猪苗代湖湖底堆積物コアへの適用。第四紀研究、第 55 巻、5 号、p. 223-236、2016

著者名：長橋良隆・中澤なおみ

功労賞は、第四紀学について多大な貢献のあった者や団体・組織、あるいは、日本第四紀学会に関係した活動に貢献のあった者および INQUA の委員、日本学術会議の INQUA 関連委員などを務めるなど日本の第四紀学に貢献があった者に授与される賞であり、2年ごとに選考が行われます。今回は、名誉会員選考委員会（委員長：水野清秀、委員：奥村晃史、公文富士夫、佐藤宏之、松浦秀治）から候補者が推薦され、6月17日に行われた評議員会において、下記の通り受賞者が決定されました。

●日本第四紀学会功労賞

受賞者：赤羽貞幸会員、寒川 旭会員、成瀬敏郎会員、立石雅昭会員、細野 衛会員、前田保夫会員、増田富士雄会員、松下まり子会員

◆日本第四紀学会ミニシンポジウム開催報告「首都圏の地下を探る」

野口真利江（株式会社パレオ・ラボ）

2018年6月17日に、標題のミニシンポジウムが日本大学文理学部・図書館オーバル・ホールで開催された。告知期間が短かったにも関わらず、開始時にはホールの後ろの席まで埋まるほどであった（参加者総数は75名）。

はじめに、齋藤会長から遠藤邦彦著「改訂版日本の沖積層—未来と過去を結ぶ最新の地層—」の紹介があり、会場受付では実際に手に取って見ることが出来た。本ミニシンポジウムでは、都内の地下に関する遠藤氏の長年の研究のうち、「日本の沖積層」発行以降に取り組みられている内容について、膨大な柱状図の解析や露頭観察の結果から、一つ一つ具体的に説明された。とりわけ東京層の定義や大山面の提唱には、会場一同食い入るように聞き入っていた。また、武蔵野面の細分化など今まで地形区分の難しい、或いは広義の東京層として曖昧にされてきた地区を、特殊な地図の表現手法（例えば、レインボーコンターマップ（杉中ほか、2018年 JpGU 予稿））や、膨大なボーリングデータによる解析（舟津ほか、2018年 JpGU 予稿）など、最新研究の紹介を交えつつ解説された。これからの研究に重要な視点をいくつも提案して

いくような内容の濃い講演であった。

続いて中澤氏から、3次元地質地盤図を中心とした、千葉県北部や世田谷層の紹介があり、地盤強度と各層との関係について説明があった。中でも、一般に低地は軟弱で地震で揺れやすく、台地は固く安全であるというイメージに反して、地域によっては逆の場合があるという説明に、一同真剣にスクリーンを見つめる様子は印象的であった。また、先の講演で東京層の年代決定は、テフラなどの資料が乏しく難しいと説明があったが、木下層をはじめとする千葉県側の更新統の谷埋め堆積物は、テフラが多い印象でモデル地域として選定されるに相応しい地域であると理解できた。一方、世田谷層の研究では、花粉分析から年代観の確認などがされており、都内の地層認定の難しさや微化石分析の有用性を再認識できる内容で大変興味深かった。

最後の総合討論では、会場から数々のコメントや質問などがあり、時間一杯まで議論が飛び交っていた。今後、都内23区の3次元地質地盤図の整備をしていくのに際し、関係者一同が情報を共有していく様子を目の当たりにできる貴重な時間

ミニシンポジウム報告

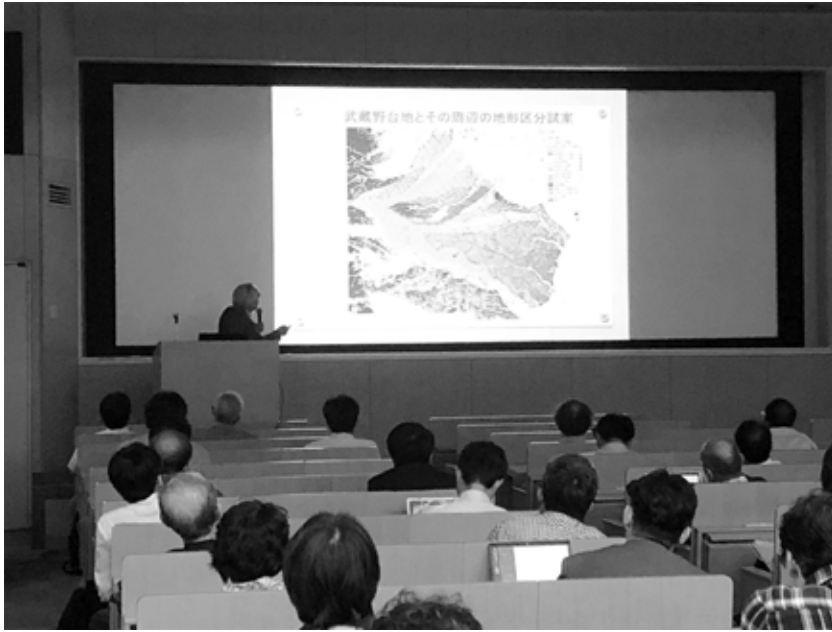
であった。

講演プログラム

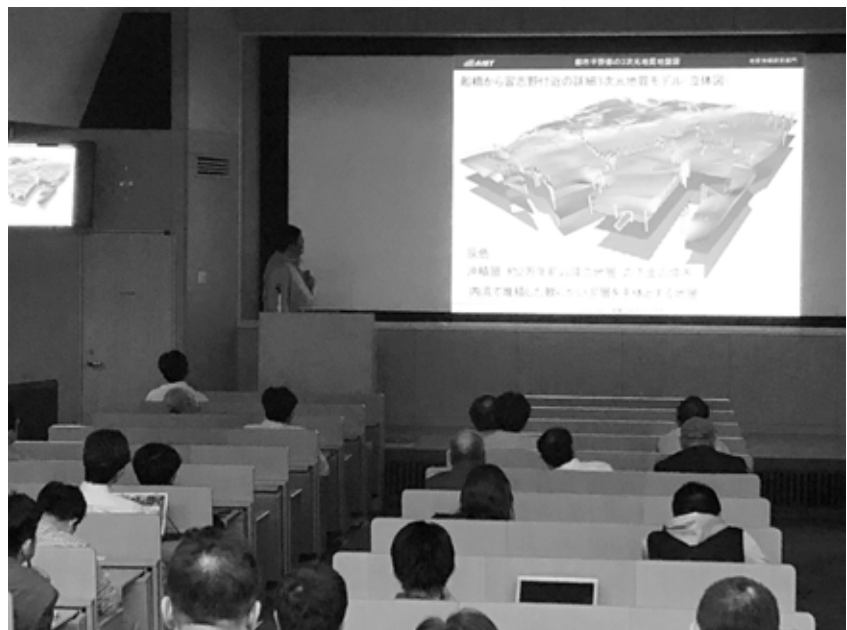
- ・開会挨拶 藤原 治（日本第四紀学会行事委員長・産業技術総合研究所）
- ・趣旨説明 齋藤文紀（日本第四紀学会会長・島根大学・産業技術総合研究所）
- ・東京の地盤の成り立ち－東京層を中心にボーリ

ング資料の解析等に基づいて－ 遠藤邦彦（日本大学名誉教授）

- ・首都圏の3次元地下地質情報の整備 中澤 努（産業技術総合研究所 地質調査総合センター地質情報研究部門）
- ・総合討論 司会：藤原 治
- ・閉会の挨拶 鈴木毅彦（日本第四紀学会副会長・首都大学東京）



シンポジウムでの講演の様子
(遠藤邦彦氏)



シンポジウムでの講演の様子
(中澤 努氏)

◆日本第四紀学会 2017 年度第 6 回執行部会議事録

日時：2018 年 6 月 3 日（日）9:30～12:30

会場：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス
会議室（東京都千代田区外神田 1-18-13、
秋葉原ダイビル 12 階）

出席：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、松
浦秀治（副会長）、吾妻 崇（庶務委員会）、
北村晃寿（編集委員会）、百原 新（広報委
員会、領域 4 代理）、藤原 治（行事委員
会）、池原 研（領域 1）、須貝俊彦（領域 2）、
兵頭政幸（領域 3）、植木岳雪（領域 5）

欠席：三浦英樹（会計委員会）、小荒井 衛（渉外
委員会）、高原 光（領域 4）

オブザーバー：高杉史靖（春恒社）

議事録

- (1) 各委員会および各領域から活動状況を報告した。
- (2) 新入会員 2 名の入会を承認した。
- (3) 2017 年度予算の支出状況を確認した。
- (4) 会員のメールアドレス登録率向上について検

討を行った。

- (5) 会員情報オンライン管理・更新システムおよ
びウェブ選挙システムの導入について春恒社から
の提案を検討した。
 - (6) 2018 年大会の準備状況を確認した。
 - (7) 『第四紀通信』25 巻 4 号の掲載記事と担当者
を確認した。
 - (8) 名誉会員候補者および功労賞候補者の選考結
果を確認した。
 - (9) 学会賞・学術賞・若手学術賞の候補者の選考
結果を確認した。
 - (10) 渉外委員会の委員追加の提案を受け、次回の
評議員会で承認を受けることとした。
 - (11) ウェブ選挙の実施に合わせた「役員選挙規程」
の一部改訂について、庶務委員会で原案を作成し、
執行部会で審議することとした。
 - (12) 次回の執行部会を 8 月初旬（具体的な日程に
ついてはメールで調整）に開催することとした。
- 以上

.....

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報委員長：百原 新 (arata(at)faculty.chiba-u.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 千葉大学大学院 園芸学研究科 百原 新
〒 271-8510 千葉県松戸市松戸 648 FAX : 047-308-8720

広報書記：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子・岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176